

福島小だより

学校通信

めざす児童像：考える子 やさしい子 元気な子
令和6年3月1日 第13号



甘楽町立福島小学校
校長 新井 綱人

この冬の異例の暖かさは、夏の猛暑に続いて、地球が悲鳴をあげているように感じさせます。今年の卒業式には、桜が开花し、6年生の卒業を祝ってくれるかもしれません。

3月22日の卒業式、3月26日の修了式に向けて、どの学年の児童もまとめの時期に入りました。卒業や進級に向けて、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

○深谷市立明戸小学校とのオンライン交流

埼玉県深谷市明戸（あけと）出身の葺崎直次郎（1823年～1893年）は、富岡製糸場の建設において資材調達のまとめ役を務めた人物です。直次郎は甘楽町福島地区の笹森稻荷神社付近の畑から、製糸場建設に必要なレンガの材料に適した粘土を発見し、その周辺に焼成釜を設け、試行錯誤の末、レンガを焼き上げることに成功したそうです。



また、直次郎は、富岡製糸場完成後の1875年（明治8年）に、笹森稻荷神社の本殿に大絵馬を奉納し、製糸場建設事業の成功を神に感謝しています。

こうしたことから、葺崎直次郎をはじめとして富岡製糸場についての学習をしていた深谷市立明戸小学校4年生と、本校における日本で最初の栄養給食のことについて学習を進めている本校6年生との間で、オンライン交流を行いました。

お互いに、地元の情報や学習の成果を発表し合ったり質問をし合ったりしながら、本校の児童が知らなかった福島地区のことを知ることも出来た貴重な時間となりました。

※参考資料：富岡市観光ホームページ～しるくるとみおか～掲載パンフレット「富岡製糸場と深谷の偉人たち」

○町内2つの園で1年生が読み聞かせ交流

1年生が、日本絵本賞候補絵本30冊の中から3冊を選び、町内2つの園（かんら保育園、めぶきの森かんら）へ出向いて、読み聞かせを行いました。読み聞かせの後、3冊のうち、どの絵本が一番良かったか、1人1人にインタビューし、1年生が代理で投票用紙を記入しました。1年生が記入した投票用紙を、幼児自身でポストの形をした投票箱に入れました。



この活動は、町内の小中学校と町図書館（ら・ら・かんら）の共同企画「日本絵本賞～好きな絵本教えて～」の取り組みの一環でもありますが、1年生にとっては、読書活動の充実に加えて、園児の役に立つという貴重な経験となりました。

○命の授業

2年生では、町の助産師さんと保健師さんを講師にお迎えして、命の尊さを学ぶ特別授業を行いました。

最初に、生命の誕生から胎児の成長の様子について、スライドを見ながら説明を聞きました。そして、代表児童による赤ちゃん誕生の瞬間の疑似体験や、産まれたばかりの赤ちゃんと同じくらい大きさ・重さの人形を抱っこする体験をしました。



2年生の児童がお腹の中にいる時に書いたという家族のメッセージもいくつか紹介していただきました。「とにかく無事に産まれてきてほしい」「会えるのが待ち遠しい」などの家族の思いを知りました。

今回の授業をとおして、命の尊さや、自分がかげがえのない存在であることを学んだことだと思います。